

教育相談

072-941-3365

情報推進

072-943-5785

研究・研修

072-943-5784

八尾市ホームページ <http://www.city.yao.osaka.jp/>
（「教育委員会」のページよりご覧ください）

初任者研修 ～野外活動研修～

日 時：令和元年8月8日（木）、8月9日（金）

場 所：八尾市立大畑山青少年野外活動センター（アクトランドYAO）
八尾市立歴史民俗資料館 等

八尾市立学校の初任者教員を対象に、八尾市立大畑山青少年野外活動センター（アクトランドYAO）や八尾市立歴史民俗資料館等山麓地域の公共施設のご協力のもと2日間の研修を実施しました。

この研修のねらいは、自然体験学習に関する技法や効果について理解を深めること、また八尾の文化や自然について体験を通じて学び、八尾の将来を支える子どもたちを育てる教員の資質向上を図ることです。

8月8日（木）は、八尾市立大畑山青少年野外活動センターにて「キャンプファイヤー理論と実践」「飯ごう炊さん」「山の自然を使った教材づくり」「キャンプファイヤーゲーム披露会」の4つの研修を行い、各学校で実施する校外学習での実践的な指導力を高めました。

各研修では、アクトランドYAOの所長である宮嶋さんより、講義、演習をしていただきました。「キャンプファイヤー理論と実践」では講義のあと、キャンドルファイヤーの実演を体験しました。「飯ごう炊さん」では、自分たちで薪に火をつけ、カレーライスを作りました。これらの研修では自然体験学習の技法を学びました。「山の自然を使った教材づくり」「キャンプファイヤーゲーム披露会」の2つは、校外学習での木工体験や、キャンプファイヤーのように、児童生徒へ指導する場面が想定されるものを初任者自身が取り組むことで、教員としての視点だけでなく、児童生徒の視点を体験し、指導する際の留意点等を学びました。

8月9日（金）は午前中に高安地域に点在する文化財について学ぶオリエンテーリングを、午後は租税教育に関する講義、初任者同士の実践交流会、河内音頭の実技講習という内容でした。

オリエンテーリングでは、八尾市立歴史民俗資料館、鏡塚古墳と、八尾市立しおんじやま古墳学習館を順にめぐり、八尾市の文化財について学びました。校外学習で児童生徒を引率すること



を想定し、校外での移動時の注意点等について事後交流を行うことで学びを深め合いました。

租税教育については、八尾税務署の方を講師として、学校における「租税教室」の概要について説明を受けました。初任者は、児童生徒に税のしくみや納税の必要性を指導することの大切さを認識するとともに、社会の一員として納税する意義を再確認していたようでした。

実践交流会では、グループに分かれて1学期の取り組みを発表し、グループ交流をとおして、成功体験や課題を共有した後、グループでの交流内容を全体で共有しました。初任者からは「同期のメンバーと共有することで、2学期の取り組みにいかすことができる内容になった。」という感想がありました。

河内音頭実技講習では、高安小中学校のサブアリーナで「正調河内音頭」を踊りました。初任者は、汗をかきながら、輪になって踊り、河内音頭の楽しさを実感したようでした。



2日に渡る研修を通して、「八尾市のことがわかった。」「校区外にある八尾市の歴史をもっと知りたい。」といった感想が多数あり、八尾市の教員を八尾市で育てる大きな一歩となりました。

小中一貫教育（八尾市教育フォーラムより）

日 時：令和元年8月27日（火）13：00～16：20

「未来を切り拓くチャレンジする『八尾っ子』の育成をめざして」各学校園における教育実践や成果を共有し、学校・家庭・地域それぞれの教育力を高める機会として、教育フォーラムが開催されました。その中で、八尾市の小中一貫教育について報告しました。各中学校区で共通の「めざす子ども像」を掲げ、中学校区の特色に応じた取組みを進めている現状を教育センターより報告し、その後、大正中学校区の取組みについて、大正小学校、大正北小学校、大正中学校の先生より、小中の連続した学びの実現にむけて、地域や家庭の協力を得て、3校の先生が話し合い、工夫し取り組まれていることを発表していただきました。



「技術・家庭」授業づくり研修

日 時：令和元年8月5日（月）10:00～12:00

講 師：大阪産業大学 准教授 山田 啓次さん

「技術・家庭」授業づくり研修では、プログラミング教育を題材として、実践的・体験的な学習や問題解決学習を取り入れた授業づくりについて研修を行いました。木工や栽培、計測・制御といった複数の内容を横断する実践例として、身近な材料とセンサーを使った自作の「植物工場」を紹介していただきました。その後、受講者一人に1台ずつタブレット端末とロボットカーを配付し、センサーを使った衝突回避や転落防止のプログラミングを実際に行いました。

受講者は、新学習指導要領を踏まえた実習を通じ、プログラミング等の新しい内容についてイメージを持つことができたようでした。

